

令和3年度 学校経営計画・学校評価

□4月5日提出 □10月15日提出 ■3月15日提出

学校番号	8	高知県立山田高等学校	課程	全
学校関係者評価				
【学力の向上】		評価	【 B 】	
<ul style="list-style-type: none"> ・学力が上昇してきている。 ・目標まであと少しというところまで到達している。今後は、目標の設定の仕方にも工夫が必要。 				
【社会性の育成】		評価	【 B 】	
<ul style="list-style-type: none"> ・学力の上昇とともに、学習に対する意欲も向上しているように感じられる。 ・探究活動への取組には、目を見張るものがある。 				
【チーム学校】		評価	【 B 】	
<ul style="list-style-type: none"> ・探究活動の成果を今まで以上に、保護者、地域へ発信していくことが重要。 ・地域や保護者等が抱えている山田高校に対する固定観念を崩す取組を継続させていく必要がある。 ・入学時、卒業時の学校に対する満足度を比較し、データを蓄積し、それをエビデンスとして発信していくことも有効。 				

(評価)A:目標を十分に達成 B:目標を概ね達成 C:やや不十分 D:不十分

高知県の教育の基本理念	(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材	取組の方向性	①チーム学校の推進 ②厳しい環境にある子どもへの支援や子どもの多様性に応じた教育の充実 ③デジタル社会に向けた教育の推進 ④地域との連携・協働
目指すべき姿	学校像 (1)生徒が誇りと自信を持って生き生きと学ぶ学校 (2)進路を確実に保障する学校 (3)地域に信頼される学校	目指すべき姿を実現するための取組等	(1)学力の定着・向上 (2)社会性の育成 (3)健全な心身の育成 (4)探究活動の推進 (5)国際交流活動の推進 (6)学校・家庭・地域の連携強化
生徒像	(1)自他に対して誠実で、誇りを持ち、何事に対しても貫徹できる生徒 (2)知・徳・体の調和が取れており、地域社会に貢献できる生徒		

【重点項目:生徒に対する取組項目】

	育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】		
学力の向上	○基礎的・基本的な知識及び技能 ○思考力、判断力、表現力等 ○主体的に学習に取り組む態度(学習習慣を含む)	【現状】 ・3年4月時の基礎力診断テスト結果(3教科総合)D層46.9% ・国公立大学合格者10名 【目標】 ＜普通科・ビジネス探究科・商業科＞ ①1年次11月及び2年次1月の基礎力診断テスト結果におけるD層割合を30%以下にする。 ②模擬試験での3教科総合の平均点偏差値50以上を5名以上にする。 ③国公立大学合格者15名以上にする。 ＜グローバル探究科＞ ④1年次1月の進研総合学力テスト結果(3教科総合)における平均点偏差値を50以上にする。 ⑤2年次1月の進研総合学力テスト結果(3教科総合)における平均点偏差値を53以上にする。	・毎日の宿題、週末課題の提出と取組が不十分な生徒に対する指導の徹底 ・自主学習をせざるを得ない状況の構築 日々の宿題と週末課題 小テスト、単元確認テストの実施 ・大学生を活用した学習指導 ・総合型選抜、学校推薦型選抜受験希望者に対する進捗管理の徹底 ・模擬試験に対応した進学補習の実施と出席管理の徹底 ・模試結果の情報共有と対策の検討	C	【目標に対する中間評価】 ①基礎力診断テスト結果(1回目)D層割合 1年次:59%、2年次:57% ②進研総合学力テスト 3教科総合 平均点偏差値50以上 ()はグローバル探究科生 1年生3人(2人)、2年生9人(9人)、3年生進研模試6月2人 ③国公立大学受験予定者数 21人 ④1年次7月の進研総合学力テスト結果(3教科総合)平均点偏差値49.99 ⑤2年次7月の進研総合学力テスト結果(3教科総合)平均点偏差値51.7 ・課題提出率 1年96.3%2年96.3%3年97.4% ・進学補習出席率 1年80%2年71.5%3年82.2% ・家庭学習時間 1年80分(昨年度76分)昨年度より、4分増。 2年48分(前回59分、前回76分)2年生は、学習時間が減少傾向。	B	・当初に設定した取組内容継続 ・教育課程検討委員会・教科会活性化(基礎力診断テスト、模擬試験の結果分析、課題提出、進学補習、家庭学習時間等)に関する状況把握と具体的手立ての共有を図り、さらなる取組の徹底を図る。 ・10月に公開授業週間を設定し、相互参観及び研究協議を行う。その際、授業評価アンケート結果も活用し、授業改善につなげる。 ・個別指導の徹底により学習意欲の向上ならびに進学実績の向上を目指す。 ・自習室の積極活用。	【目標に対する年度末評価】 ①基礎力診断テストD層割合 1年次:33% 2年次:36.8% ②進研総合学力テスト平均偏差値50以上 1年生:0人(探5人) 2年生:2人(探8人) ③国公立大学合格12人 ④進研総合学力テスト平均点偏差値(48.5) ⑤進研総合学力テスト平均点偏差値(49.1)	・探究活動と各教科との関連をより一層意識させることにより教科学習への意欲向上につなげ、主体的に学習に取り組む態度を身に付けさせる。 ・模試結果等の情報を各教科、学年団などで共有するとともに家庭学習の定着と具体的な支援策を見える化する。
社会性の育成	○コミュニケーション能力(かかわる力) ○キャリアデザイン能力(やりぬく力)	【現状】 総合的な探究の時間における地域課題探究学習や地域でのボランティア活動等の成果として、学年を追うごとに「かかわる力」は身に付いている。その一方で、例年2年次に出席不良の生徒が生じる傾向にあり、「やりぬく力」の形成が課題となっている。 【目標】 ①学期末の出席状況における皆勤者の割合を30%以上にする。(2年生対象) ②地域貢献活動やボランティア活動に参加した生徒の割合を80%以上にする。	・学年団・ホームルームにおける指導の充実 ・学年集会及びホームルームにおいて、貫徹精神を持つことの大切さを理解させる。 ・部活動をやり続けることの大切さをキャプテン会や部活動で指導する。	B	【目標に対する中間評価】 ①1学期末の皆勤者の割合(2年生) 52.1%(62名) 昨年度同時期の皆勤者の割合は59.8%であり、人数は、1名多くなっているが割合は減少している。その一方で、10日以上欠席者が全体で4名(内1名転籍)あり、学校への適応を図っていくことが課題となっている。 ②校内清掃ボランティア参加延べ人数 93人、夏休み児童クラブ支援16人 1年生地域課題探究59人、2年生地域課題探究76人	B	・引き続き、学年団・ホームルームにおける指導を充実する。 ・部活動の意義や部活動を通して得られる価値や関係性について、全校集会等で伝えるようにする。 ・生徒支援委員会で生徒の状況、具体的支援方針について共有し、SC、SSWと密に連携しながら学校への適応を支援していく。	【目標に対する年度末評価】 2学期末時点 ①皆勤者割合(2年生)35.9%(42名) ②地域貢献活動ボランティア活動に参加した生徒割合 85%	・生活習慣の確立を目指し、生徒支援委員会等で生徒個々の情報と手立ての共有を図る。 ・探究活動を通して一層チームワークの強化を図り、クラス運営に反映させる。

【チーム学校:教職員が取り組む項目】

	取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】	
授業改善	○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する。	・「学校の授業は、よく理解できている」と回答した生徒の割合を85%以上にする。	・教科会の充実 ・外部講師を招聘しての研究授業及び研究協議の実施 ・教員間の相互授業参観の充実	C	・「学校の授業は、よく理解できている」と回答した生徒の割合 (R2 1回目) 1年生 76.2%(77.4%) 2年生 71.4%(75.7%) 3年生 82.0%(72.5%) ・教科指導力向上事業 公民科公開授業、公共研修会実施(R3.7.9)	B	・当初に設定した取組内容継続 ・公開授業週間活用 ・指導主事来校研究協議活用 ・授業の型(目標提示、ふりかえりの徹底) ・教育課程検討委員会(学力向上検討委員会)	・引き続き、教科会において授業構成や発問、授業の型の定着、好事例の共有などについて、共有できる環境を整備する。
生徒理解 生徒支援	○生徒に寄り添い、一人一人の状況や特性、気持ちを捉えるとともに、生徒の実態や内面を共感的に理解する。 ○生徒への目標設定を下げず、決められたことを守らせ、やり抜かせる。	・皆勤者を30%以上にする。 ・出席不良者(30日以上欠席/年)を2%以下にする。	・学年会の実施(毎週) ・特別支援教育校内委員会の実施(毎月) ・地域課題解決学習担当者会の実施(毎週) ・ホーム面談の充実	B	一学期皆勤者の割合 53.8% 1年生 69名(65.7%) 2年生 62名(52.1%) 3年生 44名(43.5%) 出席不良者(10日以上欠席) 1.2% 1・2年生 0名 3年生 4名 皆勤者は昨年度に比べ減少。不登校傾向の人数は昨年度から微減。	B	・当初に設定した取組内容継続 ・不登校傾向にある出席不良者については、SCやSSW、市の社会福祉協議会をはじめとする関係機関と連携を取りながら対応していく。	・引き続き取り組みを継続していく。 ・不登校生徒への対応は、初期段階で生徒個々の状況に応じて行う。SCとの連携をより密にし、外部機関との連携が必要な場合はSSWを積極的に活用する。
学校の振興	○地域の中学校から信頼される学校づくりを行う。また、学校の特色として「探究する学校」を打ち出す。	・A日程入試における地域の中学校からの出願率を40%以上にする。(R2年度入試結果29.4%) ・グローバル探究科への出願数が定員に迫るようになる。	・県教委、地教委、中学校と連携を取りながら、中学生や保護者、地域住民に普通科をはじめグローバル探究科及びビジネス探究科の特色を周知し、出願につながるよう説明会や模擬授業、中学校訪問等の広報活動を行う。	B	・中学生一日体験入学参加生徒数224名(令和2年度230名) ・中学校訪問による中学生への説明19校571名(令和2年度16校374名) ・中学校訪問による3年担任への説明等の実施を計画している。 ・生徒による中学校訪問を企画していたが、コロナ感染症により中止。	B	・体験入学の際、3学科の生徒がプレゼンテーションを行う。 ・引き続き、中学校を訪問し、探究科を中心とした説明会を実施する。 ・香美市立中学校2年生への学校説明	・広報活動推進 ・学校説明会実施 ・進路実績 ・卒業生による探究活動の成果発信 ※香美市内中学校出願率31.0%
働き方改革	○教育に対する情熱を持ちながら、合理的かつ協働的に業務に取り組む職場環境を整備する。	・時間外労働時間の総計平均を月45時間以内にする。	・原則19時前の退勤に努める。 ・毎週水曜日を部活動休業日とし、できる限り早い時間での退勤に努める。 ・週休日の部活動は顧問間で交代しながら指導する。 ・衛生委員会を開催し、職員の健康管理を行う。(毎月)	B	・45時間を超える時間外労働従事者数 4月8名 5月9名 6月2名 7月1名 8月0名 9月0名 衛生委員会において、職員の健康管理を行っている。	A	・当初に設定した取組内容継続 ・声掛け、業務分担の適正管理を行い、19時までの退勤に努める。	・次年度以降も積極的な声掛けと組織風土の構築に努める。
産業教育の充実	○生徒の資質・能力の育成 ○教員の指導力向上 ○関係機関との連携 ○専門高校(学科)の魅力化	・商業科/ビジネス探究科に対する満足度(生徒の肯定的評価)を80%以上にする。 ・科内研修としての公開授業を年2回程度実施する。 ・対外機関と3つ以上の連携活動に取り組む。 ・将来において、地元(高知)で暮らしたい、働きたい、活躍したい、と考える卒業生の割合を80%以上にする。	・外部講師活用 ・毎学期の科集会と毎週の科会開催 ・課題研究発表会開催 ・地域貢献活動の推進 ・地域課題探究の取組強化	B	・外部講師を有効に活用することができた。 ・1学期末の集会を実施して、科としてのベクトルの共有化を図った。 ・地域に出る活動(地域商店街への出店など)の計画に取り組んでいる。	A	・当初に設定した取組内容継続 ・引き続き計画の実践に取り組む。コロナの拡大状況によっては、計画の修正が必要である。	・各指標は目標値を超えている。今後も科としてのベクトルを示し続け、地域とのかかわりを大切にできる生徒の育成につなげていく。